令和８年５月１１日

学校名　　鈴鹿市立神戸中学校

学校長名　市川　善浩

# 令和８年度 校内研究実施計画書

## １　研究主題及び教科

| | |
|---|---|
| 研究主題 | Heartful　神中<br>～安心できる学校、対話を通じた多様な学びをめざして～」 |
| 教科・領域 | 全教科・全領域 |

## ２　主題設定の理由

本校は、生徒数が約７５０名の大規模校である。平成２２年度に校舎を新築移転し、整った環境のもと、学習や部活動などに取り組んでいる。ブラジルやペルーなどの外国につながりのある生徒が多いことも特徴の一つである。本校では、これまですべての教科や領域を通して人権教育を推進し、人権問題を自分の課題として考え、差別解消に向けて行動できる生徒の育成をめざしてきた。

しかし、生徒の中には、中学校へ入学して学習内容が難しくなることや、交友関係や家庭環境の変化などから、小学校段階に比べて授業の理解度が低下したり、問題行動等を起こしたりする生徒もいる。また、生徒の中には複雑な生活背景を抱えている場合もあり、時には学習意欲をそがれたり、荒れとして現れたりする事例も見られる。

このようなことから、学習への内発的動機づけを高めるとともに、生徒同士や生徒と教師がつながり、仲間との関わりや承認活動などを大切にした学習活動を通して、安心できる学校とそういった環境の中で夢中になれる授業づくりを行うことが大切であると考えた。

そこで、学習指導要領で示されたこれからの社会で求められる資質・能力を育成するため、教育的に不利な環境のもとにおかれている生徒はもとより、誰一人取り残すことなくすべての生徒の学力保障及び進路保障を目指し、令和５年度より研究主題を「Heartful 神中　～安心できる学校、夢中になれる授業を目指して～」と設定し、研究を続けた。

令和５年度から令和７年度までの３か年計画「Peaceful」「Helpful」「Colorful」を通じた取組により、「安心できる居場所づくり」において授業改善アンケートから以下のような成果が見られた。令和７年12月の調査では、「クラスでは安心して学ぶことができる」との肯定的回答が92.2%、「仲間が自分の良さを認めてくれる」と感じる生徒も90.5%であった。これは学習集団としての仲間づくりの取組の成果があったと考える。

一方で、先程の授業改善アンケートより「今何をしているのかわからなくなる」と感じる生徒の肯定的回等が 48.8%に達しており、生徒一人ひとりが学びの目的や現在地を自覚できる手立てが必要だと考えられる。また「学校に行きたくないと思うことがある」肯定的回答が52.4%

に上っており、不登校傾向の生徒を含む「誰一人取り残さない」ための、よりきめ細やかな居場所づくりと多様な学習機会の提供が求められる。

## 3　研究内容及び方法（具体的な手立てまで詳しく書いてください）

研究主題の達成に向けて、単年ではなく中長期的に生徒の育成を目指すこととした。その際、発達段階に応じた研究を計画する。

第１学年では学校生活の基盤となる「土壌づくり」「種まき」の時期と位置づけ、生徒どうしをつなげる取組として、学校生活の様々な場面で教師が生徒をつなげる声掛けや授業づくりを行っていく。

第２学年では、第１学年で培った土壌をさらに豊かにする「水まき」「肥料やり」の時期と位置づけ、生徒同士の力でお互いにつながっていけるような取組を進めることとする。仲間に対するより良い声掛けの仕方や関わり方について学ぶことを通して、安心できる環境の中で、繋がりを増やすことができる居場所づくりを行っていく。

第３学年では、第２学年までに育んだ仲間との関係を深め、その関係を生かして自分の考えを深めたり高めたりすることができるような取組を進めていく。学校行事や学級活動等で協働的に活動することができる生徒や、主体的・対話的に学習に取り組むことができる生徒の育成をめざしていく。

以上を踏まえ、各学年のテーマを次のように設定する。

第１学年
　「Peaceful　～安心して過ごせる～」
第２学年
　「Helpful　～つながり、支え合う～」
第３学年
　「Colorful　～認め合い、高め合う～」

「Heartful　神中」を目指す取組

【認め合う学級・学年集団づくり】

① 人権教育の視点からの基本的な仲間づくり
② 生徒指導の視点からの学級経営
③ 生徒の変化に気づくための視点と対応策の共有

【支え合う授業づくり】

① 全国学力･学習状況調査等を活用した学力状況の実態把握と課題の明確化
② 課題の設定（めあての掲示）
③ ふりかえりの充実
④ 授業形態の工夫
⑤ ＩＣＴの積極的活用
⑥ プチ授業見学期間

【安心して学習に取り組む土台づくり】

① 家庭学習の習慣化
② 放課後学習
③ 幼小中連携推進委員会での取組

４　年間研修計画

| | 年間計画表 |
|---|---|
| ４月 | ＜１日＞教科部会（シラバス確認、定期テスト担当者・公開授業予定者決定）<br>＜３日＞第１回校内研修会（エピペン、エンカウンターと SST、UD、教科部会）<br>＜２２日＞第２回校内研修会（生徒指導のきまり、テストの受け方、今年度の研修）<br>＜２２・２３日＞第１回みえスタディ・チェック<br>＜２３・２８日＞全国学力・学習状況調査 |
| ５月 | ＜１１・１２日＞放課後学習　※中間テスト１４・１５日<br>＜２０日＞第３回校内研修会<br>（第１回テーマ別グループ研究：目的や方向性の確認、講師に質問したいことやそのための実践 |
| ６月 | ＜１～１２日＞校内プチ授業参観期間<br>＜９日＞前期公開授業研究会・第４回校内研修（３教科の公開授業・事後検討会・全体会）<br>※５月下旬 指導案〆切<br>＜１２・１５日＞放課後学習　※期末テスト１６～１８日 |
| ７月 | ＜１６日＞第５回校内研修会<br>（第２回テーマ別グループ研究：グループ内での実践報告①） |
| ８月 | ＜３～６日のうち１日＞幼小中連携事業（校区夏期研修会）<br>＜１８日＞第６回校内研修会（第３回テーマ別グループ研究：テーマ別に講師招聘） |
| ９月 | ＜９日＞第７回校内研修会<br>（全国学調、みえスタの結果分析を踏まえた授業改善）※学力向上部より<br>＜１５・１６日＞放課後学習　※中間テスト１７・１８日 |
| 10月 | |
| 11月 | ＜９～２０日＞校内プチ授業参観期間<br>＜１１日＞前期公開授業研究会・第８回校内研修<br>（３教科の公開授業・事後検討会・全体会）<br>※１０月下旬 指導案〆切<br>＜２０・２３日＞放課後学習　※期末テスト２４～２６日 |
| 12月 | ＜２１日＞第９回校内研修会<br>（第４回テーマ別グループ研究：グループ内での実践報告②） |

| | |
|---|---|
| 1<br>月 | ＜１９日＞第２回みえスタディ・チェック<br>＜２８日＞第１０回校内研修（第５回テーマ別グループ研究：グループ間での交流） |
| 2<br>月 | ＜３日＞第１１回校内研修会（第６回テーマ別グループ研究：まとめ）<br>＜１９・２２日＞放課後学習　※１・２年生学年末テスト２４～２６日 |
| 3<br>月 | ＜１６日＞第１２回校内研修会（全体の総括、令和９年度シラバス作成計画の作成、来年度の計画案提案、授業改善に向けた各教科の取組総括〆切）<br>＜３０日＞新転任者説明会 |